

わ

が

街

わ

が

故

郷

(株)不二越と富山県



富山市から望む立山連峰

(株)不二越とその本社のある富山県について紹介します。

1. 株式会社不二越(商標：NACHI)

本社・富山事業所

〒930-8511 富山県富山市不二越本町1-1-1

TEL 076-423-5111(代)

NACHI不二越は、1928年(昭和3年)に井村荒喜が、「機械工具の国産化が日本の機械産業を発展させる基礎である」という理念のもと、富山県富山市に創業しました。

1929年にハクソーが優秀国産品として天覧の荣誉に浴し、そのときのお召し鑑である巡洋艦“那智”から商標を“NACHI”にしています。工具から始めて特殊鋼の製造も行い、材料からの一貫生産を実現、さらにベアリングの生産を1939年より開始しています。その後工作機械、油圧

機器、ロボット、超精密機械、工業炉、コーティング関連商品と生産品目を広げ、技術開発型の企業としてその多角化を進めてきました。「ものづくりの世界の発展に貢献する」という経営ビジョンのもと、事業のシナジーを追求して機械産業分野におけるトップブランドをめざし、世界市場において活動しています。

不二越内においてベアリングの売上比率は約35%と一番多くを占めており、各種ベアリングを生産しています。

後段で紹介するように、富山県人の勤勉で堅

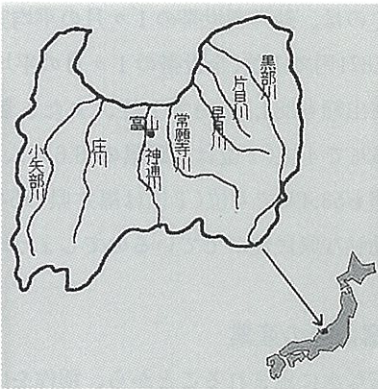


本社・富山事務所全景

実な県民性と富山県の豊富な水源、電力に支えられ、(株)不二越は発展し、今日の国際化の基礎となっています。

2. 富山県の地理・地形

富山県は日本海側で本州のほぼ中央に位置し、東西90km、南北76km、面積約4250km²、東部に北アルプスの3000m級の高山があり、北端は親不知の断崖となって日本海に臨んでいます。南部には飛騨山地の北縁が、また、西部には医王山から加越国境の丘陵があり、さらに北に延びて宝達山から石動山に続く能登半島基部の山地となっています。このように東南西を山に囲まれ、北はその深さが1000mを越える富山湾に面する半盆地地形で、富山平野が大きく広がっています。山に降り積もる雪は、豊かで澄んだ水源となり、水田に注がれています。



富山県の位置と形状・河川

一方、山から海岸までは数十kmしかなく、そのため何本もの急流の河川が発達し、富山湾は、その急流のためか河口付近から急激に深くなっており、上述のような深さを有しています。

3. 富山湾と自然

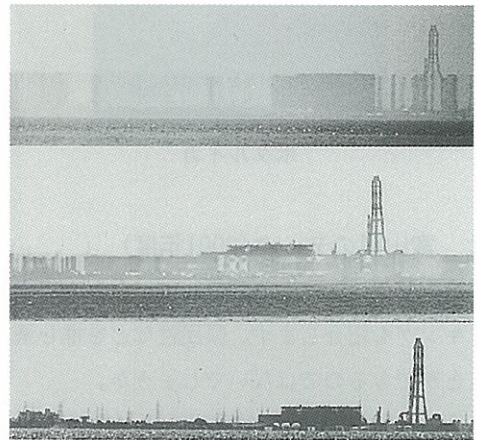
富山湾は本州の中央に位置するため、対馬暖流と日本海固有冷水塊の存在により暖水性と冷

水性の両方の生物が生息し、また、海岸線からすぐ深みになり変化に富んだ地形であることから、水産資源の宝庫となっています。特異なものとして、蜃気楼とホタルイカについて紹介します。

3-1 蜃気楼

蜃気楼は、空気中で光が屈折するために5～20km離れた景色が実際とは違う形に見える現象で、上位蜃気楼(=春の蜃気楼)と下位蜃気楼(=冬の蜃気楼)の2種類があります。春の蜃気楼(4月から5月に多い)は、実際の風景の上側に伸びたり反転した虚像が出現します。

富山湾の海面上に冷たい空気が層をつくり、その上の暖かい空気とのあいだで急に密度が変わるときに出現します。従来、立山連峰から富山湾に流れ込んだ春の雪どけ水が空気を冷やすと考えられてきましたが、近年、他の成因説も検討され、蜃気楼のメカニズムに対する関心が高まっています。冬の蜃気楼(11月から3月に多い)は春とは逆に、実際の風景の下側に反転した虚像が見えます。



上：バーコード状に伸び上がった蜃気楼
(1999年5月22日)

中：反転と伸びが混在した蜃気楼
(2001年5月13日)

下：実景(富山市岩瀬方面)

これは、冬の冷たい空気が暖かい海水に接するところで暖められ、春とは逆の温度勾配になり、光の屈折の仕方も逆になるのが原因です。

3-2 ホタルイカ

春先の海面に発光するホタルイカも比較的知られているものではないでしょうか。ホタルイカは深海発光動物であり、深海の谷間から渚近くまで産卵のため大群遊をおこします。青緑の宝石のようにひかる様は非常に美しく幻想的でもあります。その大きさは5 cm前後の小さなイカですが、大きな発光器が第4番目の腕の先や両眼に、また小さな発光器が腹などに1000個近く散在し、発光素(ルシフェリン)、発光酵素(リシフェラーゼ)等により化学発光反応をおこします。なぜ発光するかについては、外敵に対する威嚇・幻惑、雌雄の識別、餌寄せのためとさまざまな憶測がなされています。



ホタルイカ

4. 富山県のデータ(2001年度)

富山県のいくつかの項目について都道府県ランキングを紹介します。県民性などを推し量ることができるのではないのでしょうか。

人口は約112万人と全国第38位で比較的少なく、人口密度265人/km²は25位。一世帯あたりの持ち家延べ面積は171.6m²で全国1位、また、持ち家比率も79.3%と全国1位となっています。多くの世帯が大きい家を持つようです。

日照時間は1738.8時間で40位と低く(1位は

山梨県2248.7時間)、降水量は1976.0mmで8位と比較的高い(1位は鹿児島県2667.0mm)。これらは、冬場の雪のみならず、雨が多いことを物語っています。富山では、「弁当忘れても傘忘れるな」という言葉があるくらいです。富山の冬は雪が降るわりには比較的暖かく、平野部において氷点下を記録することは少ないです。これは対馬暖流のためと思われます。気温が高いため、雪は湿気をたっぷりと含んだ重い雪となっています。家々はその重さに耐えるため、比較的太い柱が使用されています。

男性の平均寿命は77.16歳と9位(1位は長野県78.08歳)、女性の平均寿命は83.86歳で5位(1位は沖縄県85.08歳)と比較的長生きです。変わったところでは、世帯当たりの乗用車数は1.988両で4位(1位は福井県2.047両)と各世帯約2両保有していることとなります。

驚くのは、勤労者世帯の1ヶ月の平均実収入は727,871円で1位、全世帯の1ヶ月の平均家計消費支出額も384,129円で1位、また、就業率は64.6%で4位(1位は長野県の66.6%)、女性就業率も53.4%で4位(1位は福井県の54.9%)と、勤勉な県民性がでているのでしょうか。

5. 富山県の産業

豊富な水に恵まれることから、稲作を中心とした農業のほか、河川の電源開発とそれを活用したアルミ関連産業をはじめ各種製造業が多く、日本海側屈指の工業県となっています。また、300年を超える家庭配置薬や銅器などの伝統産業に加え、最近ではメカトロ、バイオ、情報など先端技術産業や頭脳産業の集積が進んでいます。

5-1 地場産業全国ランキング

チューリップ球根出荷量(2000年)	1位(52.6%)
家庭配置薬(1999年)	1位(45.7%)
アルミサッシ(2000年)	1位(34.9%)

5-2 富山県の産業比率

1次産業 5.6%、2次産業 39.8%、
3次産業 54.6%

6. 富山の方言

いくつかの方言を紹介します。わかるでしょうか。ただし、文字にすると独特の言い回しが伝わりませんので、完全な表現ではないかもしれません。

アンマ (長男)

オッジャ (次男以下)

アンニャ (あなた)

ウヅイ (ひどい、情けない)

ガセロー (争う)

キトキト (新鮮な、生き生きとした)

コチョガシイ (くすぐったい)

ダラ (馬鹿)

ハシカイ (かしこい)

ヘシナイ (遅い、のろい)

コワクサイ (大人びた、生意気な)

(株式会社不二越 下条 光則)